



埼愛キムチ新聞

第14号

2022年7月9日

販売会毎発行

(努力目標!)

kimuchi@saiai.net

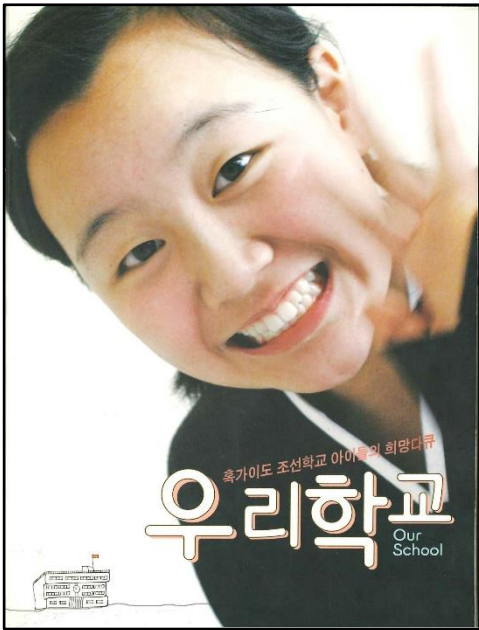
〇〇〇から見る朝鮮学校 その7

◆「ドキュメンタリー映画」◆

朝鮮学校を知るには、朝鮮学校や外国人学校について書かれた書籍を読むことや、朝鮮学校や支援団体などが主催する公開授業や学校見学会イベントに参加するといった方法もありますが、朝鮮学校を題材とした「ドキュメンタリー映画」などの映像を見る方法もおすすめです。

■『ウリハッキョ(金明俊監督・スタジオヌリムボ・2006年・131分)』

ウリハッキョとは直訳すれば「私たちの学校」。舞台は札幌市にある北海道朝鮮初中高級学校。韓国の映画監督が同校に併設されている寄宿舎に3年間寝泊まりしながらおさめた、児童・生徒、教員、そして学校を取り巻く人々の様子が描かれている。



韓国では劇場公開、日本では自主上映され、多くの人々に朝鮮学校との「出会い」を提供した記念すべき作品です。

■『60万回のトライ(朴思柔監督 朴敦史助監督・2013年・106分)』



は2010年4月、日本政府による高校無償化からの排除や地方自治体の補助金停止などの現実に向き合いつつも、ひたむきに「全国制覇」の夢に向けて猛練習を積み重ねるラグーマン達の姿を、韓国出身のジャーナリストが素晴らしい作品に仕上げました。

■『ウルボ(泣き虫ボクシング部(李一河監督)／2015年・86分)』



「ウルボ」とは「泣き虫」のこと。負けて涙するだけでなく、勝つても涙する東京朝鮮中高級学校ボクシング部のウルボの姿をおさめた青春ドキュメンタリー。高校無償化からの排除やヘイトスピーチが吹き荒れる世の中で、朝鮮人としての「誇り」と「葛藤」が共存する生徒たちの姿がまぶしい作品です。

★埼愛キムチについて★

2010年度末、埼玉県は、「財務の健全化」を口実に埼玉朝鮮学園への補助金の支給を打ち切りました。また、埼玉県議会は2012年に「拉致問題が解決するまで補助金の支給を行わない」という附帯決議を行いました。これは朝鮮学校に通う子どもたちとは何ら関係のない外交政治上の理由を持ち出すことによる不当な差別に他なりません。2018年度に県が財務状況について、「健全性が確認できた」と学校に通達した後も支給停止は続いています。このような非常に厳しい状況の中、埼愛キムチは少しでも学校運営に寄与するため、「利益全額カンパ」の活動を行っています。美味しいキムチとともに、朝鮮学校支援の輪が広がりますよう、ご協力よろしく申し上げます。